利用シーンの見直しについて

資料3－7

■概要

急峻な山岳では、山小屋からの不感地帯の発生を回避することは難しい。
これを補完するため、周辺の登山者に通報する利用シーンを想定していたが、2次遭難を招く恐れがあると指摘があった。
このため、登山者端末では表示を行わず、マルチホップ通信による中継器として機能させることでエリア補完を行う。

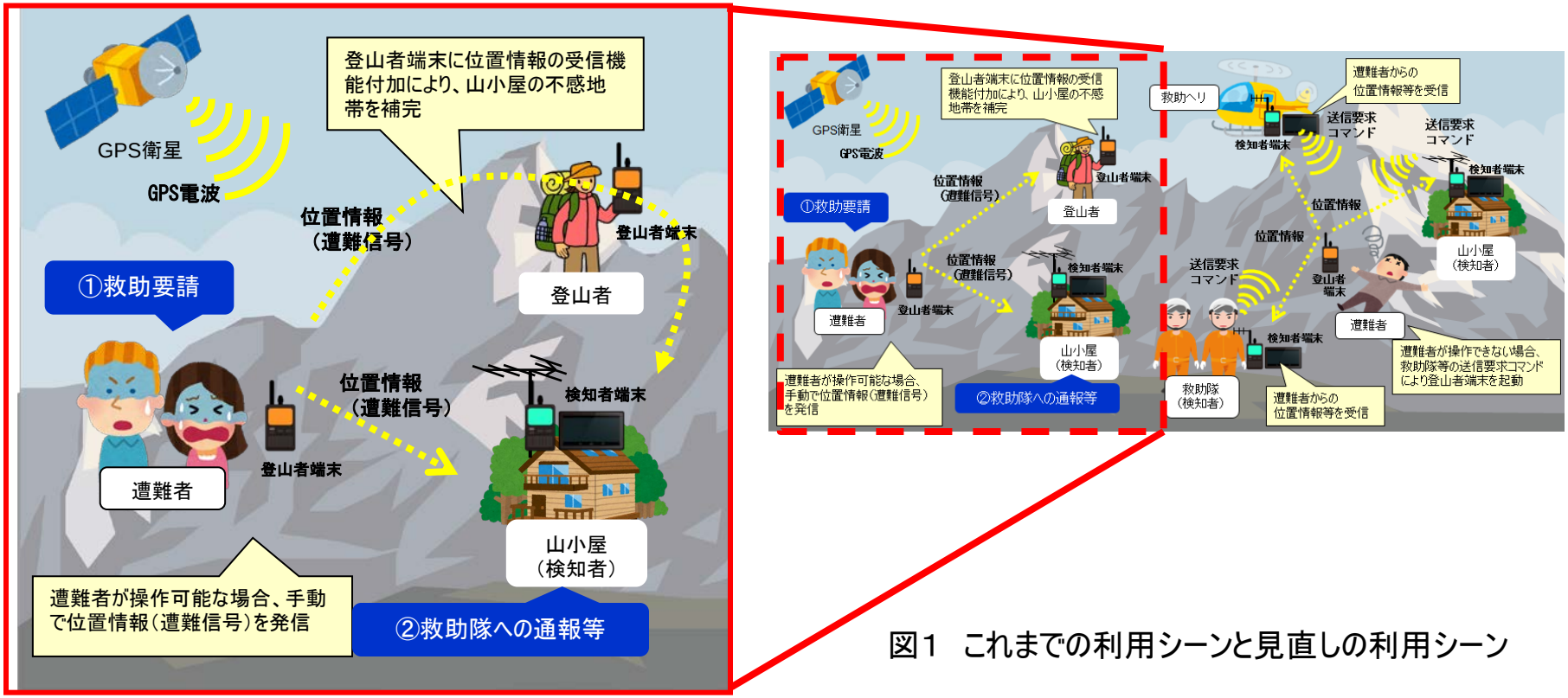

図1　これまでの利用シーンと見直しの利用シーン

項目	概要
メリット（有用性）	• 山小屋等を通じて、救助機関への通報等、迅速且つ的確な対応が可能となる。 • 登山者端末に表示機能が不要となる。
課題	• 複数の登山者端末が遭難信号をマルチホップすることによるトラフィックへの影響